

## 看護学科 1年 後期 専門基礎科目／専門科目

1. 病態生理学
2. 成人・高齢者疾病治療管理論 I
3. 成人・高齢者疾病治療管理論 II
4. 薬剤治療管理論
5. 健康と法律
6. 看護技術論 II
7. 回復促進援助技術論
8. 臨床看護概論
9. 臨床推論
10. 精神看護学概論
11. 成人看護学概論
12. 高齢者看護学概論
13. 小児看護学概論
14. 母性看護学概論
15. 地域・在宅看護学援助論

## 看護学科

科目名: 病態生理学			担当教員 氏名: 村井 嘉寛		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次 後期	専門基礎科目	演習	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか 大学医学部病理診断学講座で行われた病理解剖マクロ・組織検討会などの経験を生かした授業を行っている					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
根拠に基づいた的確な看護をするために、病気の原因や経過などの病気の成り立ちを、先天異常、物質代謝障害、炎症、免疫の異常、腫瘍などの病変カテゴリーに分類して学ぶ。					病気の成り立ち、先天異常、物質代謝障害、炎症、免疫異常、腫瘍
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 5. 6. 9.	
A 知識・理解力	看護に活用される理論、技術を身につけるために、病気の成り立ちを理解する				
B 専門的技術	専門的看護技術を修得するために、病気の成り立ちを理解する				
C 論理的思考力	病気の成り立ちを理解し、看護の理論や技術を論理的に説明できる能力を養う				
F チームワーク・リーダーシップ	医療チームの一員であることを認識し、看護師の役割を理解する				
G 倫理観	病気を理解することにより、病める人の心を理解し、医療に携わる者としての倫理観を身につける				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 90 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項: その他10%は授業の出席状況と受講態度による。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:適宜小テストを行い、採点し返却する。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①病理学の領域			[予習]教科書(病理学の領域)を読む。 [復習]病理学の領域の復習	[予習]60分 [復習]60分	
②細胞、組織とその障害、再生と修復			[予習]教科書(細胞、組織とその障害、再生と修復)を読む。 [復習]細胞、組織とその障害、再生と修復の復習	[予習]60分 [復習]60分	
③循環障害(1)(充血、うっ血、出血、血栓症)			[予習]教科書(循環障害)を読む。 [復習]循環障害の復習	[予習]60分 [復習]60分	
④循環障害(2)(塞栓症、梗塞、浮腫、ショック、高血圧)			[予習]教科書(循環障害)を読む。 [復習]循環障害の復習	[予習]60分 [復習]60分	
⑤炎症			[予習]教科書(炎症)を読む。 [復習]炎症の復習	[予習]60分 [復習]60分	
⑥免疫とアレルギー(1)(免疫系の仕組みと働き)			[予習]教科書(免疫とアレルギー)を読む。 [復習]免疫とアレルギーの復習	[予習]60分 [復習]60分	
⑦免疫とアレルギー(2)(アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全症)			[予習]教科書(免疫とアレルギー)を読む。 [復習]免疫とアレルギーの復習	[予習]60分 [復習]60分	
⑧感染症			[予習]教科書(感染症)を読む。 [復習]感染症の復習	[予習]60分 [復習]60分	
⑨代謝異常(1)(脂質代謝異常、糖質代謝異常)			[予習]教科書(代謝異常)を読む。 [復習]代謝異常の復習	[予習]60分 [復習]60分	
⑩代謝異常(2)(たんぱく質代謝異常、核酸代謝異常)			[予習]教科書(代謝異常)を読む。 [復習]代謝異常の復習	[予習]60分 [復習]60分	
⑪老化と老年病、新生児の病理			[予習]教科書(老化と老年病、新生児の病理)を読む。 [復習]老化と老年病、新生児の病理の復習	[予習]60分 [復習]60分	
⑫先天異常			[予習]教科書(先天異常)を読む。 [復習]先天異常の復習	[予習]60分 [復習]60分	
⑬腫瘍(1)(腫瘍の分類、悪性腫瘍と良性腫瘍)			[予習]教科書(腫瘍)を読む。 [復習]腫瘍の復習	[予習]60分 [復習]60分	
⑭腫瘍(2)(腫瘍の原因と発生メカニズム)、生命の危機			[予習]教科書(腫瘍、生命の危機)を読む。 [復習]腫瘍、生命の危機の復習	[予習]60分 [復習]60分	
⑮まとめ			[予習]病理学全体の復習をする。	[予習]120分	
使用テキスト: カラーで学べる病理学(ヌーベルヒロカワ)、渡辺照男著、ISBN978-4-86174-062-6			その他参考文献など: 図書館の病理学関連図書		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 準備学習(予習・復習等)をしっかりとってください。					

## 看護学科

科目名： 成人・高齢者疾病治療管理論 I			担当教員 氏名：		金森 昌彦 野澤 寛 梅原 康次 原田 樹
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次 後期	専門基礎科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：			医師の実務経験を活かして、疾病と治療の現状について教授する。		
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード
成人・高齢者の疾病について、主として外科的治療の対象となる運動器疾患・消化器疾患・スキンケア・女性生殖器・麻酔と術前・術後管理について基礎から臨床に到る考え方を学び、臨床における運動器疾患・消化器疾患・スキンケア・女性生殖器・麻酔と術前・術後管理の取り組み方を学ぶ					外科系疾患、外科的治療
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力		外科的治療の対象となる皮膚科学・運動器疾患・消化器疾患・女性生殖器・麻酔と術前・術後管理を習得することができる			
C 論理的思考力		皮膚科学・運動器疾患・消化器疾患・女性生殖器・麻酔と術前・術後管理の基礎と臨床両面から分析し表現できる			
D 問題解決力		皮膚科学・運動器疾患・消化器疾患・女性生殖器・麻酔と術前・術後管理を収集・分析・整理して問題を解決できる			
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト： 90 %	レポート： %	発表： %	実技試験： %	その他： 10 %	
特記事項：「その他」の20%は授業での参加姿勢や努力を評価する。					
アクティブラーニング要素： 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①【金森】運動器の疾病と治療 (1)			(予習)テキストの該当箇所を読む (復習)復習	【予習】60分 【復習】100分	
②【金森】運動器の疾病と治療 (2)			(予習)テキストの該当箇所を読む (復習)復習	【予習】60分 【復習】120分	
③【野澤】消化器疾患の疾病と治療 (1)			(予習)テキストの該当箇所を読む (復習)復習	【予習】60分 【復習】120分	
④【野澤】消化器疾患の疾病と治療 (2)			(予習)テキストの該当箇所を読む (復習)復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑤【梅原】外科総論			(予習)テキストの該当箇所を読む (復習)復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑥【梅原】褥瘡の病態生理と治療			(予習)テキストの該当箇所を読む (復習)復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑦【原田】麻酔と術前・術後管理			(予習)テキストの該当箇所を読む (復習)復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑧【原田】女性生殖器の疾病と治療			(予習)テキストの該当箇所を読む (復習)復習	【予習】30分 【復習】30分	
使用テキスト： 疾病と看護③消化器ISBN978-4-8404-6899-2(MCメディカ出版) 疾病と治療⑦運動器ISBN978-4-8404-6903-6(MCメディカ出版) 疾病と看護⑥眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚ISBN978-4-8404-6901-2(MCメディカ出版) 疾病と看護⑨女性生殖器978-4-8404-6905-0(MCメディカ出版)			その他参考文献など： ・疾病と治療(南江堂)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： テキスト以外にも随時プリントなどを配布しますが、授業中に過去の配布物を参照する場合がありますので紛失しないように各自管理すること					

## 看護学科

科目名: 成人・高齢者疾病治療管理論Ⅱ			担当教員 氏名: 加藤 弘巳、原田 淳、刀塚 俊起、佐々木 彰一、田中 宏明、二村 明広		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次 後期	専門基礎科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 医師の実務経験を活かして、疾病と治療の現状について教授する。					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
成人・高齢者の疾病について、主として医学診断の考え方と方法を学ぶ。さらに、内科的治療の立場から各疾患の原因、病態、検査、診断、治療、予後について教授する。主に、脳神経系疾患、呼吸器系疾患、循環器系疾患、血液・造血器疾患、免疫疾患、感染症、消化器疾患、内分泌疾患、代謝・栄養疾患、腎・泌尿器疾患の治療と予後及び管理について学ぶ。					内科系疾患、内科的治療
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力		学んだ知識を繋いで看護に生かすことができるように、疾患の知識を体系的に理解する			
C 論理的思考力		すでに学んだ解剖学・生理学の知識を活用して疾患とその診断、治療、予後及び管理について理解する			
D 問題解決力		主として医学診断の考え方と方法を学ぶことで問題解決力を高める			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 80 %	レポート: 20 %	発表: %	実技試験: %	その他: %	
特記事項: 主に小テスト、レポートにより評価するが、各担当講師により評価方法が異なる。それぞれの講義時に詳細について説明する。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 下記参照のこと。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 【加藤】別に定めた日時に試験を行い、採点後返却する 【原田】書面でコメントを返却する 【刀塚】講評を学生にメールでフィードバックする 【佐々木】試験を行い、採点し返却する 【波部】レポートで評価し、採点後返却する					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①【佐々木】 医療の目的は何か。どのようにその目的を果たすか。			事前にすでに学んだ解剖・生理学の知識や観察の技術について復習しておく。		
②【田中】 基本的な病歴聴取の方法					
③【佐々木】 身体診察の方法					
④【佐々木】 呼吸器の働きと呼吸器疾患			講義の内容から試験を行うので配布資料を必ず復習する。		
⑤【刀塚】 感染症・免疫疾患と治療					
⑥【刀塚】 血液疾患と治療					
⑦【田中】 心臓の生理機能			事前に循環器の解剖生理を復習し、事後は配布資料を熟読して知識の整理を行う。		
⑧【田中】 心疾患、特に虚血性心疾患、心不全、不整脈に関する病態生理と治療					
⑨【二村】 腎臓の生理 腎疾患、特に糸球体腎炎と血液透析について: まとめ(テスト)					
⑩【加藤】 食道、胃、小腸、大腸、肝、胆、膵疾患について提示する			事前に該当範囲のテキストを熟読し、事後は配布資料を熟読して知識の整理を行う。		
⑪【加藤】 下垂体、甲状腺、副腎、その他の内分泌疾患について提示する					
⑫【加藤】 糖尿病、その他の代謝・栄養疾患について提示する: テスト及び解説					
⑬【原田】 脳・神経系の解剖、機能の総論			事前に脳、神経、感覚器の解剖・整理について復習しておく。教室の模型を見ておく。		
⑭【原田】 内科的治療、看護を行う脳・神経系疾患の各論					
⑮【原田】 外科的治療、看護を行う脳・神経系疾患の各論					
使用テキスト: (MCメディカ出版) 疾病と看護①呼吸器ISBN978-4-8404-6897-8 疾病と看護②循環器ISBN978-4-8404-6898-5 疾病と看護③消化器ISBN978-4-8404-6899-2 疾病と看護④血液/アレルギー・膠原病/感染症ISBN978-4-8404-6900-5 疾病と治療⑤脳・神経ISBN978-4-8404-6901-2 疾病と看護⑧腎・泌尿器/内分泌・代謝ISBN978-4-8404-6904-3			その他参考文献など: 師国家試験問題集、「病気がみえる」メディックメディア		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): この授業で扱う内容は、臨床で数多く遭遇する疾患であるので、しっかり学んでほしい。					

## 看護学科

科目名: 薬剤治療管理論				担当教員 氏名: 村井 嘉寛		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	専門基礎科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っている			薬剤師としての知識・経験を生かして授業している。			
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
病気の予防、治療、診断に用いられる薬物の作用メカニズム、体内における薬物動態(吸収、分布、代謝、排泄)、薬物の副作用、薬物の安全な投与方法、薬物の管理方法などを学ぶ。					医薬品、薬理作用、薬物動態、薬物有害反応	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 9.	
A 知識・理解力			看護に活用される理論、技術を身につけるために、医薬品について理解する			
B 専門的技術			専門的看護技術を修得するために、疾病に使用される薬について理解する			
C 論理的思考力			疾病に使用される薬を理解し、看護理論や技術を論理的に説明できる能力を養う			
F チームワーク・リーダーシップ			医療チームの一員であることを認識し、看護師の役割を理解する			
G 倫理観			疾病に使用される薬の作用や副作用などを理解し、病める人の心を理解し、医療に携わる者としての倫理観を身につける			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 90 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項: その他10%は授業の出席状況と受講態度による。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:適宜小テストを行い、採点し返却する。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①医薬品の薬理作用の原理など、薬に関する基礎的事項を理解する。				【予習】教科書(薬の基本的事項)を読む。 【復習】薬の基本的事項の復習	【予習】60分 【復習】60分	
②生活習慣病に使用する薬を理解する。				【予習】教科書(生活習慣病の薬)を読む。 【復習】生活習慣病の薬の復習	【予習】60分 【復習】60分	
③がん・痛みに使用する薬を理解する。				【予習】教科書(がんや痛みの薬)を読む。 【復習】がんや痛みの薬の復習	【予習】60分 【復習】60分	
④脳・中枢神経系疾患で使用する薬を理解する。				【予習】教科書(脳・中枢神経系の薬)を読む。 【復習】感染症の薬の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑤感染症に使用する薬を理解する。				【予習】教科書(感染症の薬)を読む。 【復習】中枢神経系の薬の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑥アレルギー・免疫不全状態の患者に使用する薬を理解する。				【予習】教科書(アレルギーの薬)を読む。 【復習】アレルギーの薬の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑦消化器系疾患に使用する薬を理解する。				【予習】教科書(消化器系疾患の薬)を読む。 【復習】消化器系疾患の薬の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑧その他の症状に使用する薬を理解する。				【予習】薬理学全体の復習をする。	【予習】60分 【復習】60分	
使用テキスト: 臨床薬理学(メディカ出版)、古川裕之著、ISBN978-4-8404-5375-2				その他参考文献など: 図書館の薬理学関連図書		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):準備学習(予習・復習等)をしっかりとってください。						

看護学科

1年

科目名: 健康と法律				担当教員氏名: 山元 恵子、品川 洋介、櫻田惣太郎		
単位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	1年次 後期	専門基礎科目	講義	必修		
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
国民の健康にかかわる憲法第25条、保健師助産師看護師法をはじめ保健・医療・労働および国民の福祉にかかわる関係法規について学ぶ。国民の健康を守るための法律の構造、施策の構造、その法的根拠、看護職として深くかかわる法律の構造とその目指すものについて学ぶ。また、広い視野に立って看護の役割・責任を理解する。				健康 憲法第5条 保健師助産師看護師法 福祉 人権 公衆衛生		
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 9		
A 知識・理解力		<ul style="list-style-type: none"> <li>健康にかかわる保健、医療、労働に関する法律の概要を理解する</li> <li>衛生行政および、保健所の機能と役割について理解する。</li> <li>保健師助産師看護師法とは何かを理解する。</li> <li>保健師助産師看護師法を基本とした専門職としての職務責任を理解する。</li> <li>憲法第25条をはじめ国民の福祉にかかわる法律について法律の構造を知る。</li> </ul>				
C 論理的思考力		<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉施策の構造、その法的根拠を学び、看護とのかかわりについて考える。</li> </ul>				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 60 %	レポート: 30 %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項: それぞれの講師によって評価の方法が異なる。講義のときに詳細について説明する。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポート、試験については後日、返却する。						
授業計画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容		学習に必要な時間(分)
①【品川】憲法第25条をはじめ国民の福祉にかかわる法律について法律の構造				【予習】テキストの関連項目を読み、学習ポイントを理解する 【復習】授業資料で復習する		30分
②【品川】福祉施策の構造、その法的根拠				【予習】テキストの関連項目を読み、学習ポイントを理解する 【復習】授業資料で復習する		60分
③【櫻田】健康にかかわる保健、医療に関する法律の概要				【予習】テキストの関連項目を読み、学習ポイントを理解する 【復習】授業資料で復習する		【予習】120分 【復習】120分
④【櫻田】健康にかかわる労働に関する法律の概要				【予習】テキストの関連項目を読み、学習ポイントを理解する 【復習】授業資料で復習する		【予習】120分 【復習】120分
⑤【櫻田】衛生行政および、保健所の機能と役割				【予習】テキストの関連項目を読み、学習ポイントを理解する 【復習】授業資料で復習する		【予習】120分 【復習】120分
⑥【山元】社会規範としての法と道徳。看護業務の法律上の責任について				【予習】テキストの関連項目を読み、学習ポイントを理解する		【予習】120分 【復習】120分
⑦【山元】保健師助産師看護師法について				【復習】講義で配布する資料で理解の確認		【予習】120分 【復習】120分
⑧【山元】看護職の業務に関連する法律、政令、省令、規則についてまとめ				【予習】テキストの関連項目を読み、学習ポイントを理解する 【復習】授業資料で復習する		【予習】100分 【復習】100分
使用テキスト: ナーシング・グラフィカ8「公衆衛生」:メディカ出版 ISBN978-4-8404-4118-6 C3347 ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度(看護) ISBN978-4-8404-6514-4 C3347				その他参考文献など: 国民衛生の動向 田村やよひ: 私たちの拠りどころ保健師助産師看護師法、日本看護協会出版会、その他資料		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 看護師として、理解すべき関係法規の基礎知識と看護業務の関連を学習する。						

看護学科				1 年	
科目名: 看護技術論Ⅱ				担当教員 氏名: 高田 亮子	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次 後期	専門科目	演習	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			看護は、問題解決過程をもとに的確な援助を組み立てているものです。看護現場は複合的な問題をはらんでいるため、クリティカルシンキングを駆使し状況に合わせた判断力が求められる。現実の医療現場に即した事例をもとに思考をつみあげられるような企画としている。		
授業科目の学習教育目標の概要:			キーワード		
看護実践を展開するための方法として基盤となる問題解決の思考プロセスに基づいた看護の展開プロセスについて学習する。			ヘルスアセスメント 看護過程・看護診断 看護理論		
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 8	
A 知識・理解力	対象のヘルスニーズを判断するために必要な基礎的知識や技術を習得できる。看護の対象である人々の安全、安楽、自立、個別性を支えるために正確な知識、技術の習得の必要性がわかる。				
C 論理的思考力	看護過程の展開の技術を習得できる。				
D 問題解決力	科学的・分析的態度を身につけることができる。				
E 自己管理能力	演習やグループワークを通して、自己の役割を理解し、リーダーシップおよびメンバーシップのあり方を形成する。				
F チームワーク・リーダーシップ	人間関係を成立・発展させる技術として、コミュニケーション技術の実践への活用方法が理解できる。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 50 %	レポート: 40 %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項: 「レポート: 40%」については、提出状況や内容についてを評価する。 「その他: 20%」については、授業(演習)での参加姿勢(出席状況)や取り組み姿勢を評価する。					
アクティブラーニング要素: 課題解決学習) (ディスカッション、ディベート) (グループワーク) (プレゼンテーション) 実習、フィールドワーク					
課題学習、グループワークを行う。テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定めた日時に、本科目における学習内容の確認とまとめを実施する。適宜、レポートによる課題を提示する。テーマや提出日は講義内に伝える。5回小テストを実施する。(講義前に)					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 提出された課題については修正部分を指摘し、修正し再提出されたものを評価対象とする					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①看護過程とは 医師の診断プロセスと看護診断 情報収集と解釈・分析と診断治療	DVD視聴 DVDの推論プロセスを言語化		テキスト1の看護過程を要約するテキストP206~225	【予習】60分 【復習】60分	
②看護診断とは 看護診断とは何か 基礎看護学実習Ⅰの受持患者事例をもとに全体像の整理			テキスト1の看護診断を要約するP239~244	【予習】60分 【復習】60分	
③看護過程:アセスメント アセスメントの構成要素 情報収集(観察・コミュニケーション)・解釈・分析 アセスメントの枠組みの考え方			テキスト1のアセスメントを要約するP226~239	【予習】60分 【復習】60分	
④看護過程:基礎看護学実習Ⅰの事例の枠組みごとの分類と仕分け			テキスト2のアセスメント項目を確認P90~102	【予習】60分 【復習】60分	
⑤看護過程:1.看護診断のタイプ 2.看護診断の表記(因子、徴候と症状、診断ラベル) 3.看護診断の記述方法			テキスト1の看護診断を要約するP239~244	【予習】60分 【復習】60分	
⑥看護過程:基礎看護学実習Ⅰの事例の看護診断の決定			課題の整理	【予習】60分 【復習】60分	
⑦看護過程:1.目標の概念 2.看護診断に関する成果 3.看護診断と成果の関係 4.成果達成までの時間設定 5.看護治療の選定			テキスト1の看護計画を要約するP247~252	【予習】60分 【復習】60分	
⑧看護過程:基礎看護学実習Ⅰの事例の計画立案			課題の整理	【予習】60分 【復習】60分	
⑨看護過程:1実施の構成要素 2.評価の視点(成果の達成度、達成度の原因、再アセスメント)			テキスト1の実施・評価・記録を要約するP252~262	【予習】60分 【復習】60分	
⑩看護過程:基礎看護学実習Ⅰの事例の実施・評価			課題の整理	【予習】60分 【復習】60分	
⑪看護過程:紙上患者の事例展開(グループワークの進め方)			今までの振り返り	【予習】60分 【復習】60分	
⑫看護過程:パターンごとの個人ワークをもとにした検討			担当パターンの情報の仕分けと解釈・分析	【予習】60分 【復習】60分	
⑬⑭看護過程:全体関連図の作成、看護診断の抽出			全体関連図の見直しと診断名の抽出 発表用資料(PP)の作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑮⑯看護過程:全体発表会(ディベート形式)			発表原稿の作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑰看護技術論Ⅱにおける知識・技術の確認とまとめ				【予習】60分 【復習】60分	
使用テキスト:1. 茂野香おる:系統看護学講座:専門分野Ⅰ基礎看護学(2)基礎看護技術Ⅰ、医学書院 ISBN978-4-260-04211-6 2. 江川隆子 編:ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断ヌーベルヒロカワ ISBN978-4-86174-073-2 3.リンダJ.カルベニート著:看護診断ハンドブック第11版 医学書院 ISBN978-4-260-03451-7			その他参考文献など: 古橋洋子 編:患者さんの情報収集ガイドブック、メヂカルフレンド社 ロザリнда・アルファロ・ルフィーヴァ(著)、本郷 久美子(翻訳):基本から学ぶ看護過程と看護診断 医学書院		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):看護の中核となる技術です。専門職たる看護師に最も身につけなければならないものといえます。各学修内容をまとめる科目となり、今までの積み重ねを振り返るよい機会ともなります。常に主体的能動的な学修姿勢をもって、貪欲に学んでください。					

看護学科				1 年	
科目名: 回復促進援助技術論				担当: 高田亮子、高橋 絹代、古里直子、炭谷英信、泉 朱子	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次 後期	専門科目	演習	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			診療にかかわる技術は、身体のメカニズムの理解と薬剤等の知識を統合して行わなければならない。医療現場でのクリティカルな場面で安全を確保し対象への確かな援助が提供できる技術の修得を目指す。現場の即応した物品を使用し、体験を重視した講義とする。		
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
看護は、看護実践の基盤となる看護基本技術の方法と根拠となる知識を理解し、対象のおかれている状況と状態に適した看護の技術を創造していくことが重要である。看護の対象となる人々への健康回復促進に向けての援助の必要性や科学的根拠を理解し、健康回復促進の基本的援助技術について学習する。				症状・生体機能管理(呼吸・体温) 創傷管理 援助技術(治療・処置・検査) 与薬(薬物と看護・注射と看護) 救急救命処置	
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力		・健康回復促進に必要な「症状・生体機能管理技術」、「創傷管理技術」、「治療・処置に伴う援助技術」、「与薬の技術」、「救急救命処置技術」について、科学的根拠を踏まえて理解できる。			
C 論理的思考力		・健康回復促進に必要な「症状・生体機能管理技術」、「創傷管理技術」、「治療・処置に伴う援助技術」、「与薬の技術」、「救急救命処置技術」についての基本的援助技術が習得できる。			
D 問題解決力		・科学的・分析的態度を身につけることができる。			
F チームワーク・リーダーシップ		・知識、技術を統合し活用するための論理的思考をもって演習を行うことができる。			
G 倫理観		・学習目標達成のために学習・演習を遂行できる。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 60 %		レポート: 20 %		発表: %	
				実技試験: 10 %	
				その他: 10 %	
特記事項: 上記の「その他:10%」については、授業(演習)での参加姿勢(出席状況)や取り組み姿勢を評価する。					
アクティブラーニング要素: 課題解決学習) ディスカッション、ディベート) グループワーク プレゼンテーション) 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 演習では適宜技術の確認を実施する。第29回目の授業で知識の確認、第30回目の授業で技術のチェック(実技試験)を実施する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 提出された課題は確認し不足等の指摘を行ったうえで点数化する。					
使用テキスト: ①系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ「基礎看護学③」医学書院 ISBN978-4-260-02760-1C3347 ②大久保昭行 編:系統看護学講座;別巻⑥ 臨床検査, 医学書院 ISBN978-4-260-01803-6C3347				その他参考文献などは適宜、紹介する。	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・この授業は、看護技術論の知識を基に看護実践の基盤となる基本知識と技術を身につけるための授業(演習)科目です。また、基本的な解剖生理学の知識が必要となりますので、予習・復習を前提とした主体的な姿勢で授業に臨んでください。 ・随時授業資料を配布しますので、その資料を紛失しないようファイルするなど自己管理してください。 ・演習の時間だけでは、基本的技術の習得はできませんので、積極的、計画的に実習室を活用してください。また、演習時の服装は指示されたものを着用してください。					
授 業 計 画				準 備 学 習 (予 習 ・ 復 習 等)	
回数				学習内容	
				学習に必要な時間(分)	
1	【高田】オリエンテーション 苦痛の緩和・安楽確保の技術			テキスト(P141~151)・ナースングスキルを確認する 予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分
2	【高田】感染防止技術(洗浄・消毒・滅菌・無菌操作) 創傷管理技術(包帯法)			テキスト(p422~458, p272~276)を確認する。予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分
3	【高田】感染防止(洗浄・消毒・滅菌・無菌操作・包帯法)(演習:A、B)			テキスト・ナースングスキルを確認する。予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分
4	【炭谷】苦痛の緩和・安楽確保の技術(電法の技術, リラクゼーション法)			テキスト・ナースングスキルを確認する 予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分
5	【高橋】呼吸・循環を整える技術①			テキスト(P215~246)・ナースングスキルを確認する 予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分



※前ページよりつづき

看護学科

1 年

科目名: 回復促進援助技術論		準備学習(予習・復習等)	
授業計画		学習内容	学習に必要な時間(分)
6	【高橋】呼吸・循環を整える技術②	テキスト・ナーシングスキルを確認する 予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分
7	【高橋】呼吸・循環を整える技術③	テキスト・ナーシングスキルを確認する 予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分
8	【高橋】呼吸・循環を整える技術④(実技)(演習:A、B 別日) 体位排痰法(体位ドレーン、スクイーピング、ハフピング)	テキスト・ナーシングスキルを確認する 予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分
9	【高橋】呼吸・循環を整える技術⑤(実技)(演習:A、B 別日) 口腔内・鼻腔内吸引	テキスト・ナーシングスキルを確認する 予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分
10	【泉】非経口的栄養摂取の援助①	テキスト・ナーシングスキルを確認する 予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分
11	【泉】非経口的栄養摂取の援助②(演習:A、B 別日) 経管栄養法	テキスト(P27～55)・ナーシングスキルを確認する 予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分
12	【古里】症状・生体機能管理技術	テキスト・ナーシングスキルを確認する 予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分
13	【古里】診察・検査・処置の介助技術	テキスト・ナーシングスキルを確認する 予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分
14	【古里】症状・生体機能管理技術①(演習:A、B 別日) 採血(真空管)	テキスト・ナーシングスキルを確認する 予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分
15	【古里】症状・生体機能管理技術②(演習:A、B 別日) 採血(注射器)	テキスト・ナーシングスキルを確認する 予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分
16	【高橋】中間まとめ	テキスト・ナーシングスキルを確認する 予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分
17	【高橋】与薬の技術①(講義) 与薬にまつわる医療事故の原因と必要な知識・技術(個人ワーク・グループワーク)	テキスト(P286～334)・ナーシングスキルを確認する 予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分
18	【高橋】与薬の技術②(講義) 薬物の基礎知識(定義・法律と制度、チーム医療と看護師の役割、薬物の作用するしくみ・投与方法の違い・代謝)	テキスト・ナーシングスキルを確認する 予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分
19	【高橋】与薬の技術③(講義:A、B 合同) 演習の進め方 計画書の立案	テキスト・ナーシングスキルを確認する 予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分
20	【高橋】与薬の技術④(演習:A、B 別日) 皮下注射・皮内注射	テキスト・ナーシングスキルを確認する 予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分
21	【高橋】与薬の技術⑤(演習:A、B 別日) 筋肉注射	テキスト・ナーシングスキルを確認する 予習・復習の課題プリント(ワークシートの作成)	【予習】60分 【復習】60分
22	【高橋】与薬の技術⑥(演習:A、B 別日) 筋肉注射	テキスト・ナーシングスキルを確認する 予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分
23	【高橋】与薬の技術⑦(演習:A、B 別日) 演習計画の立案 計画書の提出	テキスト・ナーシングスキルを確認する 予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分
24	【高橋】与薬の技術⑧(演習:A、B 別日) アンプル・バイアル、ルート作成	テキスト・ナーシングスキルを確認する 予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分
25	【高橋】与薬の技術⑨(演習:A、B 別日) 静脈内注射・固定、滴下数の調整	テキスト・ナーシングスキルを確認する 予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分
26	【高田】死の看取りの援助 死の受容 家族の悲嘆 死後の処置	テキスト(P480～491)・ナーシングスキルを確認する 予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分
27	【炭谷】救命救急処置技術①一次救命処置 AED	テキスト(P346～369)・ナーシングスキルを確認する 予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分
28	【炭谷】救命救急処置技術②止血法	テキスト・ナーシングスキルを確認する 予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分
29	【高橋】回復促進に関わる援助についてのまとめ、実技試験(無菌操作、点滴セット及び滴下数の調整、アンプルの操作)	テキスト・ナーシングスキルを確認する 予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分
30	【高橋】回復促進援助技術論における知識のまとめ	テキスト・ナーシングスキルを確認する 予習・復習の課題プリント	【予習】60分 【復習】60分

看護学科

1 年

科目名: 臨床看護概論			担当教員 氏名: 高田 亮子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次 後期	専門科目	講義	必修	
実務経験をういてどのような授業を行っているか:		実務経験から、医学の視点ではなく、看護の視点で看護に必要なケアの見方や考え方について、前期で学んだ知識をもとに、対象の発達段階や疾患からくる症状や生活上の問題発見となる手がかりについて			
授業科目の学習教育目標の概要:		キーワード			
看護は、対象の発達段階や健康レベルや治療による影響から生活が変化する。健康の破綻の時間的問題から、急性期・慢性期・回復期・終末期の特徴が出る。また、症状による対象の反応のメカニズムとアセスメント及びケア、医療現場で身近で代表的な医療機器の原理やと実際を理解し、看護実践の情報を得る機器として活用できるよう機器のメカニズムをもとに適切に活用できる基礎とする。		対象理解、発達課題、健康障害、経過別、症状別、治療処置、看護の視点			
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 7	
A 知識・理解力	看護で活用される理論を理解する				
C 論理的思考力	対象の特徴を情報の収集・分析・アセスメントを通して論理的に考えることができる				
E 自己管理能力	健康上のニーズを理解し、基本的な看護学の知識、技術を統合することができる				
G 倫理観	看護実践を倫理的視点でとらえることができる。				
D 問題解決力	看護の対象の特性とおこなわれている治療・処置からくる原因を推論し、問題解決思考に活かすことができる。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 60 %	レポート: 20 %	発表: 10 %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項:					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業終了後に実施する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 授業の中で適宜解説をする。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①講義概要について 看護とは何か 看護の対象理解 :健康障害と生活への影響			【予習】テキスト第一章をまとめる 【復習】授業資料を確認し、学びを整理する。	【予習】60分 【復習】60分	
②看護の視点 経過別、症状別、治療処置別 健康状態 事例で、経過・症状・治療処置を考える 栄養代謝 活動・休息 認知・知覚 コーピング行動 化学療法			【予習】テキスト第二章から第三章第四章の指定領域をまとめる 【復習】事前学習をもとに事例を比較検討	【予習】60分 【復習】60分	
③事例でのグループワーク			【予習】テキスト第二章から第三章第四章の指定領域をまとめる 【復習】事前学習をもとに事例を比較検討	【予習】60分 【復習】60分	
④事例でのグループワーク			【予習】テキスト第二章から第三章第四章の指定領域をまとめる 【復習】事前学習をもとに事例を比較検討	【予習】60分 【復習】60分	
⑤事例でのグループワーク			【予習】テキスト第二章から第三章第四章の指定領域をまとめる 【復習】事前学習をもとに事例を比較検討	【予習】60分 【復習】60分	
⑥発表 視点 急性の経過、栄養代謝・活動休息・コーピング、化学療法			【予習】テキスト第二章から第三章第四章の指定領域をまとめる 【復習】事前学習をもとに事例を比較検討	【予習】60分 【復習】60分	
⑦発表とまとめ			【予習】テキスト第二章から第三章第四章の指定領域をまとめる 【復習】事前学習をもとに事例を比較検討	【予習】60分 【復習】60分	
⑧医療機器の原理と実際 医療機器の特性 心電図モニター 人工呼吸器 輸液ポンプ 取り扱い方			【予習】テキスト第六章をまとめる 【復習】講義内容のまとめ	【復習】120分	
使用テキスト:臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院 ISBN978-4-260-02174-6			その他参考文献など: 疾病と看護①呼吸器ISBN978-4-8404-6897-8 疾病と看護②循環器ISBN978-4-8404-6898-5 疾病と看護③消化器ISBN978-4-8404-6899-2(MCメディカ出版) 疾病と治療⑤脳・神経ISBN978-4-8404-6901-2 疾病と看護⑧腎/泌尿器/内分泌・代謝ISBN978-4-8404-6904-3		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):看護の視点を、人の発達段階や健康の視点、治療・処置に付随する現象から、必要とされる看護が導き出されることを学んでほしい。					

看護学科

1 年

科目名: 臨床推論				担当教員 氏名: 高田 亮子	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次 後期	専門科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		看護の臨床経験から、対象の看護診断を導く基礎となる論理的思考の考え方及びその実際の技術について教授する。			
授業科目の学習教育目標の概要:			キーワード		
看護は、健康障害をもつ人の生活上の問題に、対象が自らのもてる力で対応できるよう支援することである。対象のもつ問題を批判的思考と論理的思考を用いて看護診断を推論検証できる思考法を身につけ、状況を全体的に俯瞰しつつ、看護診断を特定していく。看護実践上の思考手段として活用できるための基礎とする。			問題解決技法 論理的思考(ロジカルシンキング) 批判的思考(クリティカルシンキング) 看護診断		
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 8	
A 知識・理解力	問題解決技術における論理的思考の基礎となる知識を修得できる。対象へのヘルスニーズを判断するために必要な基礎知識を習得でき、看護の対象である人々々の健康問題を対象とともに解決できるクリティカルシンキングにつなげる基礎とする。				
B 専門的技術	論理的思考の技術を習得できる。				
D 問題解決力	科学的・分析的思考過程を理解することができる。				
E 自己管理能力	個人ワークを通して、論理的思考を理解することができる。				
F チームワーク・リーダーシップ	個人ワークをもとに自ら考える力を養い、根拠のある意見がもて、ディベートを通して発言力を養う。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: %	レポート: 30 %	発表: 20 %	演習: 40 %	その他: 10 %	
特記事項: 上記の「その他:10%」については、授業での参加姿勢(出席状況)や取り組み姿勢を評価する。					
アクティブラーニング要素: 課題解決学習      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 初回の講義の際に伝える。適宜、レポートによる課題を提示する。テーマや提出日は講義内に伝える。 グループワーク、課題学習、演習(実技)を行う。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 提出された課題は確認し不足等の指摘を行なったうえで点数化し、評価に含める。					
授 業 計 画			準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 )		
			学 習 内 容	学 習 に 必 要 な 時 間 ( 分 )	
①【高田】臨床推論とは何か、問題解決思考(看護問題の解決過程) クリティカルシンキングとロジカルシンキング(診断過程)			テキスト・ナーシングスキル等の確認 課題プリント	【予習】60分 【復習】60分	
②【高田】①三角ロジック ②体系的にとらえる思考法 ③MECE ④ロジックツリー ④説明の仕方 ⑤まとめ方(PPの作成)			テキスト・ナーシングスキル等の確認 課題プリント	【予習】60分 【復習】60分	
③【高田】論理思考としての帰納法 病態・症状・治療の構造理解と推論			テキスト・ナーシングスキル等の確認 課題プリント	【予習】60分 【復習】60分	
④【高田】系統別疾患と病態・症状・治療の関連性をまとめる(疾患別)			テキスト・ナーシングスキル等の確認 課題プリント	【予習】60分 【復習】60分	
⑤【高田】同 上			テキスト・ナーシングスキル等の確認 課題プリント	【予習】60分 【復習】60分	
⑥【高田】同 上			テキスト・ナーシングスキル等の確認 課題プリント	【予習】60分 【復習】60分	
⑦【高田】同 上 発表資料作成			テキスト・ナーシングスキル等の確認 課題プリント	【予習】60分 【復習】60分	
⑧【高田】同 上 発表会 まとめ			テキスト・ナーシングスキル等の確認 課題プリント	【予習】60分 【復習】60分	
使用テキスト: 随時資料配布とする。			その他参考文献など: 1.解剖生理学(メディカ出版) 2.疾患と看護①呼吸器②循環器③消化器④血液/アレルギー・膠原病/感染症⑤脳・神経⑦運動器⑧腎/泌尿器/内分泌・代謝(メディカ出版)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): この授業は、看護の問題解決思考の中核である診断を構成している要素について学びます。思考するプロセスを学ぶ科目です。論理的思考(ロジカルシンキング)を身につけ、さらに批判的思考(クリティカルシンキング)をもとに看護実践能力の基盤となる知識と技術を学びます。					

看護学科				1 年	
科目名：精神看護学概論				担当教員 氏名：長谷川 雅美	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次 後期	専門科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：					
授業科目の学習教育目標の概要：				キーワード	
心と体の健康について学び、心の健康を阻害する要因や維持するために必要な知識を学ぶ。また、精神看護の歴史を振り返り、今社会に求められている精神看護とは何かについて学び精神看護の在り方について考え実践できる能力を身につける。				精神看護、精神科看護 精神保健福祉法、心の健康と障害、人権擁護	
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 8. 9	
A 知識・理解力		・精神科疾患患者に対する社会の理解と対応について、歴史的変化の過程を知る。 ・精神保健に関係する法制度の変遷を理解し、人権尊重の意味を理解する。			
C 論理的思考力		・こころの健康に影響する要因について理解し、精神障害者への対応について述べる事ができる。			
G 倫理観		・精神科疾患をもつ患者に対する社会的な問題を理解し、人間尊重を基盤とした援助の在り方を考える。			
F チームワーク・リーダーシップ		・精神障害者の地域社会への参加や共存の具体的方法を理解する。			
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト：70 %	レポート：10 %	発表：10 %	実技試験： %	その他：10 %	
特記事項： ・授業への参加姿勢や出席状況、その他を総合して評価する。 ・アクティブ・ラーニングの一環として、DVD鑑賞後グループ討議と発表を行う。					
アクティブラーニング要素： 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：レポート、試験は後日、返却する。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容		学習に必要な時間(分)
①精神障害についての基本的な考え方、精神保健医療福祉に関する法律			【予習】シラバスの確認。①第1章、第10章参照 【復習】①1章を復習する	予習60分 復習60分	
②精神疾患の特徴、心の理解、ライフサイクルと精神保健			【予習】①第3章、第4章を予習する。 【復習】①②の特徴をノートにまとめる。	予習60分 復習60分	
③精神看護における対人関係：現代社会とこころ			【予習】第5章を予習。現代社会の問題をまとめる。 【復習】②③の特徴をノートにまとめる。	予習60分 復習60分	
④精神科医療の特徴と精神科看護、精神科医療における倫理と人権擁護			【予習】①第9章、第11章参照 【復習】①第9章、第11章を復習として読む。	予習60分 復習60分	
⑤危機とストレスマネジメント、リエゾン精神看護			【予習】①第2章、第6章、第12章を参照 【復習】①第2章、第6章、第12章を復習として読む。	予習60分 復習60分	
⑥精神障害者の家族の理解と支援について、地域における精神看護			【予習】①第7・8章参照 【復習】①第7・8章を復習として読む。	予習60分 復習60分	
⑦精神の健康とは何かについてのグループ討議			【予習】①第1章、第2章参照 【復習】①第1章、第2章を復習として読む。	予習60分 復習60分	
⑧精神の健康とは何かについてのグループ討議の発表			【予習】①討論内容をまとめる 【復習】①第1章、第2章及び討論内容を読む。	予習60分 復習60分	
※試験は、別日に実施とする					
使用テキスト： ○精神看護学(1)：情緒発達と精神看護の基本 (ナーシンググラフィカ) ○精神看護学(2)：精神障害と看護の実践 (ナーシンググラフィカ)				その他参考文献など： 国民衛生の動向	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： ・精神的な健康問題は、多種多様で増加傾向です。こころの病は、現代病とも言えます。本授業でこころの病を理解するとともに、どのような援助が必要なのかを主体的に学んでください。					

## 看護学科

科目名: 成人看護学概論			担当教員 氏名: 小倉 之子			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	専門科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			看護師の実務経験を活かして、看護の場や対象の理解と現状について教授する。			
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
成人看護の特性や成人期の対象を理解し、成人看護の目的・役割・機能、問題解決の方法について学ぶ					成人、成長発達の特徴、学習の特徴、生活習慣	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (短マトリックスで示される番号)		2. 3. 5. 6. 7. 8	
A 知識・理解力	ライフサイクルにおける成人の位置づけを成長・成熟・発達から考慮し、各成人期の特性を理解することができる					
C 論理的思考力	成人の特性や能力に応じた理論と基本的アプローチについて理解することができる					
D 問題解決力	講義内で行われる事例・課題に基づき、問題解決法を見出すことができる					
E 自己管理能力	自らを律して学修に臨む学修準備、体調管理ができる					
F チームワーク・リーダーシップ	グループワークを通じて各自の役割を理解し、チームに参画することができる					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 60 %	レポート: 20 %	発表: 10 %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項:						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション、ディベート</u> <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 試験は最終講義終了後に別日を設けて実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 授業の中で適宜解説をする。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容	学習に必要な時間(分)		
①成人看護学の授業構成(概論、援助論) 成人期にある人の理解			【予習】テキスト第1章熟読 【復習】テキスト配布資料復習	【予習】90分 【復習】90分		
②成長発達の特徴:成人期の成長発達、成人の役割(グループワーク)			【予習】テキスト第1章熟読 【復習】テキスト配布資料復習	【予習】90分 【復習】90分		
③成長発達の特徴:青年期、壮年期、向老期の特徴と健康問題(グループワーク)			【予習】テキスト第1.3章熟読 【復習】テキスト配布資料復習	【予習】90分 【復習】90分		
④成長発達の特徴:(グループ発表)			【予習】テキスト第1.3章熟読 【復習】テキスト配布資料復習	【予習】90分 【復習】90分		
⑤成人を取り巻く社会環境と成人の生活 社会の中で生活を営むということ、働くことと生活、家族との関係、多様なライフスタイル			【予習】テキスト第2章熟読 【復習】テキスト配布資料復習	【予習】90分 【復習】90分		
⑥成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策 生活状況の特徴、生と死の動向(感染症、生活習慣病、がんなど)、			【予習】テキスト第3章熟読 【復習】テキスト配布資料復習	【予習】90分 【復習】90分		
⑦成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策 健康増進、健康日本21			【予習】テキスト第3章熟読 【復習】テキスト配布資料復習	【予習】90分 【復習】90分		
⑧健康障害をもつ成人にかかわる際の基本的な視点 ヘルスプロモーション、危機状況への適応、行動変容			【予習】テキスト第4章熟読 【復習】テキスト配布資料復習	【予習】90分 【復習】90分		
使用テキスト: 黒江ゆり子編,成人看護学概論・成人保健,メチカルフレンド社ISBN978-4-8392-3364-6			その他参考文献など:			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): テキストを活用し、予習復習を必ず行いましょう						

## 看護学科

科目名: 高齢者看護学概論			担当教員 氏名: 荒木 晴美		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次 後期	専門科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのよ 病院、訪問看護事業所(訪問看護、居宅介護、福祉用具貸与)での高齢者との関りの経験を活かして、加齢による心 うな授業を行っているか: 身の変化や社会的側面からみた高齢者の立場の理解、看護の役割について教授する。					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
高齢者の特徴は個人差が大きいことである。それは、過去の生活環境、体験や権病の違い、そ の中で形成された生活習慣や信念による。さらに、現実となってきた「人生の最終ステージにあ る」という思いはまさに個人のものである。 高齢者の特徴について、加齢による心身の変化及び社会的側面からみた高齢者の立場を理 解し看護師としての役割を学ぶ。					要介護高齢者 看護: 高齢者ケアシステム 身体拘束・虐待防止法 富山型サービス 介護保険
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力	高齢者を看護するための基礎を作るために ①高齢者看護学の基礎となる理論を知る ②高齢者の心身の特徴と生活を理解する				
C 論理的思考力					
D 問題解決力					
G 倫理観	③高齢者ケアのシステムと看護の役割について考える				
C 論理的思考力	グループワークを行うこととおして論理的思考、問題解決力、チームワーク、コミュニケーション 力、自己管理能力を向上させる。				
D 問題解決力					
E 自己管理能力					
F チームワーク・リーダーシップ					
H コミュニケーション力					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 60 %	レポート: 10 %	発表: 20 %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項: 本科目はアクティブ・ラーニングの一環としてグループワークやディベートなどにより高齢者の理解を深め、看護師としての役割を学ぶ ことを狙いとしています。その他10%は取り組み具合を評価します。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 (ディスカッション、ディベート) (グループワーク) (プレゼンテーション) 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 本科目はアクティブ・ラーニングの一環としてグループワークなどにより高齢者の理解を深め、看護 師としての役割を学ぶことを狙いとしています。その他10%は取り組み具合を評価します。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: テーマごとに課題の提出をいいます。テストは別に定めた日時に行い、後日返却します。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な 時間(分)	
① 高齢者看護学の学び方、高齢者の特徴 (反転授業)			【予習】シラバスの内容確認、テキスト第1章、 第3章ABCを熟読 高齢者の身体的変化につ いて学習してくる。 【復習】ポイントをノートに整理	180分	
② 超高齢社会の現況と施策の方向性、高齢者の倫理的課題			【予習】①テキスト第2章読む、国民衛生の動 向第2編4章熟読 ②高齢化の問題や倫理的な課題に関する新 聞記事を検索し持参 【復習】レポート作成	180分	
③ 高齢者の身体の変化とアセスメントについて関連する事柄を抽出・記載			【予習】テキスト第4章Bを読み身体の変化に ついて書かれている事柄を抽出する。わか らないことを調べてくる 【復習】グループ課題の遂行	180分	
④ 高齢者の身体の変化とアセスメントについて抽出した事柄を発表			【予習】発表準備 【復習】ポイントをノートに整理	180分	
⑤ 高齢者看護の役割、高齢者ケアのための課題分析の方法と理論の概略			【予習】テキスト第3章BCD熟読 【復習】ポイントをノートに整理	180分	
⑥ 介護保険の概要			【予習】①テキスト第2章B②第9章B熟読 ②国民衛生の動向第5編の第1、2章熟読 【復習】ポイントをノートに整理	180分	
⑦ 認知症ケア、高齢者の尊厳を護るケアのあり方(特別講師)			【予習】テキスト第2章B②、第4章A熟読 【復習】ポイントをノートに整理	180分	
⑧ ケアマネジメントの目的・プロセス、高齢者アセスメントの枠組 まとめ			【予習】テキスト第6章C③熟読 【復習】全体の振り返り	180分	
使用テキスト: 1.老年看護学、医学書院 北川公子、ISBN 978-4-260-03186-8 2.国民衛生の動向・厚生指針 増刊、厚生労働統計協会				その他参考文献など:	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 身近にいる高齢者の生活から学ぶ努力を期待します。					

看護学科			1 年		
科目名:小児看護学概論			担当教員氏名: 山元 恵子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次 後期	専門科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			必要に応じて、実務経験における事例を参考にしつつ授業を進める。		
授業科目の学習教育目標の概要:			キーワード		
1 小児の特徴と小児看護の概念を理解する 2 小児各期の子どもの成長発達、家族の特徴を理解する 3 身体的・心理的発達とそれをサポートする家族・社会システムと課題を理解する			発育・発達・成長 子どもの最善の利益 子どもと家族 発育の評価		
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 8	
A 知識・理解力	正常な子ども成長・発達を理解し、さまざまな健康レベルの知識を獲得する				
C 論理的思考力	子どもの身体的・心理社会的成長発達とそれをサポート役割・支援のあり方を整理する				
D 問題解決力	「子どもと家族の最善の利益」について考え今日の課題について理解する				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 60 %	レポート: 30 %	発表: 10 %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項:「レポート:40%」については、提出状況や内容についてを評価する。 「その他:20%」については、授業(演習)での参加姿勢(出席状況)や取り組み姿勢を評価する。					
アクティブラーニング要素:					
課題解決学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
課題学習、グループワークを行う。テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定めた日時に、本科目における学習内容の確認とまとめを実施する。適宜、レポートによる課題を提示する。テーマや提出日は講義内に伝える。5回小テストを実施する。(講義前に)					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 提出された課題については修正部分を指摘し、修正し再提出されたものを評価対					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①【山元】小児看護の特徴と概念			【予習】小児の状況を知る 【復習】小児看護の目標 子どもの権利とは	【予習】160分 【復習】160分	
②【山元】子どもの成長・発達とその評価			【予習】小児看護の特徴 【復習】子どもの成長発達	【予習】160分 【復習】160分	
③【山元】子どもの成長発達 1)			【予習】新生児・乳児 【復習】新生児期・乳児期の成長・発達	【予習】160分 【復習】160分	
④【山元】子どもの成長発達 2)			【予習】幼児・学童 【復習】幼児期・学童期の成長・発達	【予習】160分 【復習】160分	
⑤【山元】子どもの成長発達 3)			【予習】思春期・青年期 【復習】思春期・青年期の成長・発達	【予習】160分 【復習】160分	
⑥【山元】子どもにとって家族とは			【予習】家族とは 【復習】小児看護における家族の位置づけ	【予習】160分 【復習】160分	
⑦【山元】学校保健法			【予習】関連資料の収集 【復習】資料のまとめ	【予習】160分 【復習】160分	
⑧【山元】子どもと家族を取り巻く社会			【予習】収集した資料のまとめ	【予習】160分 【復習】160分	
				【予習】160分 【復習】160分	
				【予習】160分 【復習】160分	
				【予習】160分 【復習】160分	
				【予習】160分 【復習】160分	
				【予習】160分 【復習】160分	
				【予習】160分 【復習】160分	
				【予習】160分 【復習】160分	
				【予習】160分 【復習】160分	
使用テキスト:1. 系統看護学講座:専門分野Ⅱ小児看護学概論、小児臨床看護総論、医学書院 ISBN978-4-260-03860-7C3347			その他参考文献など: 授業の中で示します。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):・日常生活の中で小児とその家族がおかれる状況を理解する。また身近な子どもやその家族に関心を向けて観察してみよう。 ・「子どもの最善の利益」を目指した、小児看護の役割・支援のあり方を考えていきましょう。					

看護学科

1年

科目名: 母性看護学概論				担当教員 氏名: 炭谷靖子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	1年次 後期	専門科目	講義	必修		
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 母性看護の対象は、女性のライフサイクル全般と家族の健全な構築を目的としており、女性の各ライフサイクルの特徴と社会背景について、助産師、保健師としての体験についての話も取り入れつつ、今後の母性看護の在り方について考えられるための資料や機会の提供を行う。						
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
母性看護学は女性のライフサイクルと女性をとりまく環境を理解し、母性看護に必要な能力の習得を目指す。 本講では母性看護学の導入として、母性および母性看護学の概念を理解し、母性看護の基本的な考え方について学習する。 また、母性看護の対象はあらゆる人づくりの基礎をなす広義の母性である。女性の一生にわたる母性機能の発達とその時期に応じた健康問題について看護学とその関連領域の概念枠組みを用いながら理解を深める。さらに統計から見た母性看護の動向をさぐり課題を考える。				ライフサイクル、女性、家族、セクシュアリティ、生殖		
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5		
A 知識・理解力	母性看護の基礎的知識を理解する。					
B 専門的技術	母性看護における対象把握の必要性を理解する。					
D 問題解決力	自身のライフステージを基にライフサイクル各期の女性の健康問題について考える。					
E 自己管理能力	自身の性機能の健康管理について理解する。					
G 倫理観	リプロダクティブヘルス/ライツについて理解する					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 40 %	レポート: 60 %	発表: %	実技試験: %	その他: %		
特記事項: グループラーニング・作業を行います。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業ガイダンスでレポート課題を提示します。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポート返却時にコメントを提示します。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容		学習に必要な時間(分)	
①【母性看護学の基盤となる概念】			シラバス・テキストの熟読		180分	
②【リプロダクティブヘルスと看護】			テキスト・関連資料の熟読		180分	
③【リプロダクティブヘルスに関する法・施策・支援】			テキスト・関連資料の熟読		180分	
④【生殖に関する生理】			テキスト・関連資料の熟読		180分	
⑤【生殖における健康問題と看護】			テキスト・関連資料の熟読		180分	
⑥【不妊症】【加齢とホルモンの変化】			テキスト・関連資料の熟読		180分	
⑦全体確認 まとめ DVDの視聴			課題学習		180分	
⑧全体確認テスト 解説 まとめ			全体のまとめ		180分	
使用テキスト: ①中込さと子 他 編: ナーシング・グラフィカ 母性看護学①: 概論・リプロダクティブヘルスと看護 ISBN978-4-8404-7531-C3347 ③母子健康手帳			その他参考文献など: 国民衛生の動向			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 女性、子ども、家族、社会について歴史の視点からの読書をすすめます。映像資料を用いての授業を行いますので、事前にテキストを熟読してください。毎回、確認テストと解説を行いながら学習内容理解を深めます。						



## 看護学科

科目名: 地域・在宅看護学援助論			担当教員 氏名: 荒木 晴美						
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考				
1	1年次 後期	専門科目	演習	必修					
実務経験を用いてどの病院、訪問看護事業所管理者(訪問看護、居宅介護、福祉用具貸与)、介護認定調査員などの実務経験を活かして、地域と在宅で暮らす人々の理解、生活支援のあり方について教授する。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
地域・在宅看護論は、地域に住むあらゆる健康レベルの人々が、その人らしく住みなれた地域で暮らし続けることを支援することを目的とする。そのためには、地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念を理解することが必要である。ここでは、地域と在宅という場の特徴を知り、在宅療養者と家族のQOL向上を目指した健康と生活の支援方法を実施できるための基礎を作る。					地域特性 生活支援 社会資源 地域活性化				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10				
A 知識・理解力		あらゆる健康レベルの人々が住み慣れた地域で暮らし続けるために ①自身が住む地域の特徴を理解する ②在宅で療養する人への生活支援について理解する							
C 論理的思考力		フィールドワーク、グループワーク、討論を行うことをとおして論理的思考力、問題解決力、自己管理能力、倫理観を向上させる。							
D 問題解決力									
E 自己管理能力									
G 倫理観									
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート・課題:	60 %	発表:	30 %	実技試験:	%	その他:	10 %
特記事項: 本科目はアクティブ・ラーニングの一環としてフィールドワーク、グループ討議などを行うことにより地域・在宅で暮らす人々の理解を深め、看護師としての役割を学ぶことを狙いとしています。その他10%は取り組み具合を評価します									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 (ディスカッション、ディベート) (グループワーク) (プレゼンテーション) 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定めた日時に最終テストを行います。適宜レポートの提出と発表を課します。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: テスト、課題は後日返却します。									
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)						
			学習内容		学習に必要な時間(分)				
① ガイダンス、地域・在宅で暮らす人々			【予習】自身の地域に住む人々の暮らしの特徴について考える。 【予習】テキスト2の第2章熟読 【復習】授業のポイントをノートにまとめる		【予習】60分 【復習】60分				
② 住まい・生活環境			【予習】テキスト1の第3章 6)住まい・生活環境熟読 【復習】該当ページノートにまとめる		【予習】60分 【復習】60分				
③ 地域・在宅の場の特徴理解(地区踏査、サンシップでの体験学習が入っていない時間に実施する)			【予習】校区の人口、高齢化率、生活に密着した資源等について調べておく 【復習】課題シートにまとめる		【予習】60分 【復習】60分				
④ 地域・在宅の場の特徴理解(地区踏査、サンシップでの体験学習が入っていない時間に実施する)					【予習】60分 【復習】60分				
⑤ 障害者・福祉用具・住宅改修の理解 (サンシップにて体験学習) a/b/cグループに分かれて実施			【予習】脳梗塞による障害について調べる 【復習】体験を行ったレポート作成		【予習】60分 【復習】60分				
⑥ 障がい者疑似体験、福祉用具体験 (サンシップにて体験学習) a/b/cグループに分かれて実施					【予習】60分 【復習】60分				
⑦ 地区踏査と障がい者疑似体験、福祉用具体験学習のまとめ 地域活性化に向けて (グループワーク)			【予習】グループで地区の特徴をまとめる 【復習】地区の特徴を共有してのレポート作成		【予習】60分 【復習】60分				
⑧ 地域・在宅で暮らす人々の健康・生活支援 グループ討議・発表 まとめ			【予習】授業を振り返り看護職の役割について考える 【復習】レポート作成		【予習】60分 【復習】60分				
使用テキスト: 1. 在宅看護技術、メチカルフレンド社、正野逸子・本田彰子 ISBN: 978-4-8392-1558-0 c3347 2. 基礎からわかる地域・在宅看護論、照林社、編著: 池西静江、 ISBN: 978-4-7965-9			その他参考文献など: 地域・在宅看護学概論で使用したテキスト 1. 家族看護を基盤とした地域・在宅看護論 第5版 2. 関連図で理解する在宅看護過程						
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 地域で暮らす人々の生活に目を向けましょう。自分が自宅での生活の中で、障害や病気をもったとき、現在と生活がどのように変化するかを考えながら学習を進めてください。									